

弁護士に対するイメージ

法律事務所に勤め始めてから今年で6年目になる。法律事務所に勤めるときかけは、大学の先輩の知り合いに弁護士がいてその人の紹介で受けた事務所から更に現在の事務所を紹介してもらってという、俄かには理解できないような若干の縁があったためである。

法律事務所職員
根本 好文

入所当時をふり返って

学校を卒業してすぐにこの業界に入ったので、それまで法律事務所というのがどのようなところであるのかほとんど知ることはなかった。また、私は、知り合いに弁護士がいないことはもちろん、私が住んでいた地域に数名の弁護士は居ても関わることはほとんどないという地方の出身者である。なので、弁護士と話したことなどまるでなく、弁護士に対するイメージは、良くは正義の味方・エリート、悪くは尊大・敷居が高いといったものだった。

また、当然、法律事務所の事務員がどのような仕事をしているのかも、全く知らなかった。テレビドラマで見る事務員は、司法試験の勉強をしながら法律事務所に勤め、法律を駆使して弁護士顔負けの仕事をし、時には探偵のように尾行や張り込みのようなこともする。私の持っていた事務員のイメージもそのようなものだった。

よって、勤務開始前夜は法律事務所働くことへの不安で気が張り詰め眠れず、結果、勤務開始の初日から寝坊をしてしまうほど緊張していたものである。

実際に働いてみて

入所してから1年程は、やはり、弁護士に対面していることや法律事務所という職場にいる自覚から、少なからず緊張する日々が続いた。しかし、徐々に、弁護士といってもスーパーマンではなく、時には悩むことも弱気になることもあると知り、事務員は尾行や張り

込みをしなくとも良いことを知るにつれ、緊張や不安な気持ちは少しずつ和らいでいった。

確かに、業務中の弁護士や法律事務所の事務員は、仕事に対し厳格な面を持つ。だが、それは、誰に対しても手厳しく四角張っているという意味とは異なる。仕事以外においては弁護士といえども、つまらないジョークを言うような普通の人である。

心がけていきたいこと

今になって思えば、かつて弁護士や法律事務所・事務員に抱いていたイメージと現実との間には差があることが分かるわけだが、世間の弁護士等に対するイメージは、私が入所当時抱いていたイメージと大きな違いはないと思う。身近で弁護士に接する機会が多ければ別であるが、法律事務所に来る方の中には、弁護士と話をするのが初めてで、自分の抱えている問題に対する大きな不安をもっている。それに加え、弁護士等に対する敷居が高いイメージがあれば、かなりの緊張をして来所する方も少なくはないだろう。

私は、自分のかつてに引き付け、そのような方々に対して、少しでも張り詰めた気持ちを和らげることができるよう心がけていきたいと思っている。一般市民にとって、弁護士に依頼するということは、人生で一度あるかないかのことであろう。そこで必要以上の緊張のために、正確に紛争や事件の内容を伝えることができないといったことがないよう、少しでもサポートできれば幸いである。